

平成26年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年8月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,374億円余
2. 前年同月比	-1.4% (4か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.9%(90.6%) : 非店頭-6.0%(9.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,760㎡ (前年同月比:-2.2%)
6. 総従業員数	19,187人 (前年同月比:-0.1%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 4.2%、1-3月 12.3%、2-4月 7.1%、 3-5月 4.3%、4-6月 -6.3%、5-7月 -3.2%

[参考] 平成25年7月の売上高増減率は-1.0% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、月中旬までの天候不順の影響を受けたものの、梅雨明け後の客数回復に伴って各店の集客催事も活況となり、月計ではほぼ前年並みを確保した。売上高についても前年比プラスの店舗が複数あったが、地区全体としては前半の不振をカバーするまでには至らず、僅かに前年実績を下回る結果となった。
- (2) 主力の衣料品(-1.0%)は前年を若干割込んだが、梅雨明け以降は気温上昇で盛夏物が良く動き、婦人(-2.9%)を除く3品目(紳士:+2.4%/子供:+4.3%/その他衣料:+1.1%)が前年を上回ったことに加え、身のまわり品(+0.9%)もプラスに転じるなど、ファッションアイテムには復調の兆しが見えてきた。特に、堅調なメンズ市場が背景にある紳士靴やハンドバッグなど服飾雑貨の好調さが目立っている。
- (3) 訪日外国人の増加は都内全域に及んでおり、輸入特選雑貨、化粧品、子供服・洋品などを中心に売上の押し上げ効果を発揮している。
- (4) 食料品(-0.8%)については、中元商戦の6月前倒しの反動からその他食料品(-1.3%)のマイナス幅が拡大したものの、菓子・惣菜の健闘を生かす形で前年に肉薄した。
- (5) 東京地区の8月中間段階(8月14日)までの商況は、梅雨明けの遅れや台風11号の上陸が週末に重なった影響などから、前年比2%程度のマイナスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 7店、③減少した: 6店
- (3) 7月歳時記(夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み)の売上 (同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 4店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	137,460,788	100.0	-1.4
紳士服・洋品	10,705,924	7.8	2.4
婦人服・洋品	27,357,786	19.9	-2.9
子供服・洋品	2,124,934	1.5	4.3
その他衣料品	3,173,932	2.3	1.1
衣 料 品	43,362,576	31.5	-1.0
身のまわり品	18,783,706	13.7	0.9
化粧品	7,076,793	5.1	1.9
美術・宝飾・貴金属	7,486,505	5.4	-9.6
その他雑貨	5,809,702	4.2	-3.0
雑 貨	20,373,000	14.8	-3.9
家具	2,077,263	1.5	-3.5
家電	696,257	0.5	-12.1
その他家庭用品	4,406,293	3.2	-3.5
家 庭 用 品	7,179,813	5.2	-4.4
生 鮮 食 品	6,115,967	4.4	-1.1
菓 子	10,159,802	7.4	-0.1
惣 菜	7,526,374	5.5	-0.6
その他食料品	15,070,799	11.0	-1.3
食 料 品	38,872,942	28.3	-0.8
食 堂 喫 茶	3,538,937	2.6	-1.6
サ ー ビ ス	2,078,876	1.5	-4.5
そ の 他	3,270,938	2.4	0.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商品券	4,586,609 千円	-7.2
従業員数	19,187 人	-0.1
店舗面積	856,760 m ²	-2.2

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、先月まで3か月連続で全品目がマイナスしたが、今月は身のまわり品がプラスに転じ、全国同様食料品以外は改善を見せた。紳士服・洋品が2か月ぶり、子供服・洋品、その他衣料品、化粧品が4か月ぶりにプラスとなった。また、その他雑貨、家電、生鮮食品、菓子、その他食料品は先月より若干落としたが、その他の品目は先月の伸びを上回った。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.4	-	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	2.4	0.2	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-2.9	-0.6	4か月連続マイナス
子供服・洋品	4.3	0.1	4か月ぶりプラス
その他衣料品	1.1	0.0	4か月ぶりプラス
衣料品	-1.0	-0.3	4か月連続マイナス
身のまわり品	0.9	0.1	4か月ぶりプラス
化粧品	1.9	0.1	4か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-9.6	-0.6	4か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.0	-0.1	4か月連続マイナス*
雑貨	-3.9	-0.6	4か月連続マイナス
家具	-3.5	-0.1	4か月連続マイナス
家電	-12.1	-0.1	4か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.5	-0.1	4か月連続マイナス
家庭用品	-4.4	-0.2	4か月連続マイナス
生鮮食品	-1.1	0.0	4か月連続マイナス*
菓子	-0.1	0.0	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-0.6	0.0	4か月連続マイナス*
その他食料品	-1.3	-0.1	4か月連続マイナス*
食料品	-0.8	-0.2	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.6	0.0	4か月連続マイナス
サービス	-4.5	-0.1	8か月ぶりマイナス
その他	0.8	0.0	4か月ぶりプラス
商品券	-7.2	-0.3	39か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>